

## 認知症地域支援体制構築等推進事業

～ 名張市地域包括支援センター ～

1. モデル地域における取り組み  
～ 地域ぐるみの取り組みを目指して
2. 事業所向け「センター方式」研修会  
～ 利用者本位のケアの推進
3. 啓発事業  
～ 認知症に対する理解の促進
4. コーディネーター  
～ 見守り支援ネットワークの構築

## 1. モデル地域における取り組み

～ ともに支えあうこころ豊かなまちづくり

### (1) すずらん台地区

「認知症サポーター養成講座」

- 第1回：地区社協役員 24人
- 第2回：自治会班長 18人
- 第3回：一般地域住民 人

(講座の内容)

- DVD「認知症100万人キャラバン」(15分)
- 講演：三重県立看護大学 伊藤薫先生 (40分)
- 寸劇：「認知症の人を地域で見守ろう」(15分)
- 質疑応答

## ～ 認知症サポーター養成講座 アンケートより抜粋 ～ (思ったこと感じたこと)

- ・認知症という言葉は、知っていたが、気にもとめていなかった。もっと知りたい。
- ・自分もいつ認知症になるのか分からないと痛切に感じました。
- ・認知症に対する理解がもっと広まって欲しい。・若い人にもっと聞いてほしい。
- ・地域の人を知ることが大切。・相手の話をやさしく聞くことが大切。
- ・日常生活の中で、お互いに理解しあうことが大切
- ・認知症の人には優しく接すること、地域で支えることが大切だと思った。
- ・家族でなくても、地域でかかわることが大きな支えになることを学んだ。
- ・認知症になったら勇気をもって言うことが大切。
- ・認知症の診断を市・県・国レベルでチェックできる仕組みが必要ではないか。等

## (あなたができること、してみたいこと)

- ・見守ること。・主人としっかり話しておきたい。・これから日記を書きたい。
- ・近所のおばあちゃんなどのゴミ出しなどお手伝いできればと思う。
- ・やさしく声をかけていきたい。
- ・要介護者の把握・支援体制をつくること。等

### (2) 薦原地区

「認知症予防支援ウォーキングマップ」

回想による認知症予防

→ 地域づくり委員会と協働し、地域住民にとって、馴染みのある場所に触れることのできるルートを選定し、マップを作成する。

☆担当保健師が地域の方から散歩コースにある名所や見所、それらにまつわるエピソードを聞き取り、また一緒に歩いてマップの原案を作成している。

- ◎しっかり歩こうコース(葛尾～高塚山) 約4km・90分
- ◎思い出を語らいながら歩こうコース(西田原)約2km・30分
- ◎子どもと一緒に歩こうコース(八幡) 約3km・45分

## 2. 事業所向け「センター方式」研修会

～ 利用者本位のケアの推進

認知症介護研究・研修東京センター 主任研究主幹 永田久美子氏による



(第1回目) 164名参加

各自の認知症高齢者への介護体験や相談対応をもとに、身近にいる認知症高齢者についてグループ討議

(第2回目) 89名参加

地域別グループ討議では、地域の資源を洗い出し「いろんな発見があった」との感想も

### (第3回) センター方式を使って考えてみる 《実践報告》

72名参加

地域包括支援センター、ケアマネ事業所、グループホームから一例ずつセンター方式を用いたアセスメントの結果を発表。発表者と永田先生との対話形式で実践例を振り返る。

### ☆センター方式の実践報告に対する意見・感想(抜粋)

- ・シートを用いることで、事業所、主治医や家族に理解してもらいやすいので、使ってみたい。
- ・消防や警察を巻き込んだ支援マップに書き込むという考え方が参考になった。
- ・本人に関わっている家族やスタッフなど周囲の思いだけで、プランを作っていたと感じた。
- ・利用者の生活史などをもっときめ細かく聴き取ることの大切さを再確認した。
- ・ケアをしていく上で情報がいかに大切かということも学んだ。
- ・世話になっていることにストレスを感じさせないケアをすることが大切だと感じた。等

### 3. 啓発事業 ～ 認知症に対する理解の促進

#### (1) 市職員向け認知症サポーター養成講座

平成21年3月19日(木)

講師: 吉田一生氏(三重県健康福祉部長寿社会室長)

⇒ 各関係機関に働きかける前にまずは自ら

⇒ 最終的には、市職員全員サポーター化を目指す。

#### (2) 認知症フェアの開催

平成21年3月29日(日)

認知症サポート医である矢倉先生の講演を中心に市の取り組み事例の紹介などをおこなう。商工会、学校、タクシー会社、銀行、地域等の役員の皆さんに呼びかけ、認知症の理解を進めてもらい、各職場・地域における認知症サポーター養成講座の開催につなげていく。

### (3) 啓発教材の開発

#### ① 認知症に関する書籍の紹介冊子を作成

《絵本、基本書、介護体験、漫画、DVDなどを紹介》

・ダイジェスト版(A4・7ページ)と小冊子(A5・30ページ)

・学校や介護保険事業所を中心に配布予定

・ダイジェスト版にある書籍の貸出をおこなう予定

#### ② 紙芝居の作成

寸劇のシナリオを基に紙芝居を作成し、地域のサロンなど少人数グループでの啓発に活用する。

### 4. コーディネーター

～ 見守り支援ネットワークの構築

#### ○見守り支援マップの作成

コーディネーターによる相談ケースについて考察し、どういった支援者にどのように支えられながら暮らしているのかマップ作成を通じて明らかにしていく。

その作業を通じて地域にある資源を再確認する。